

刊夕日六月八

常磐毎日新聞

定価 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元
電話 六三〇〇
印刷所 常磐毎日印刷株式会社

海の便り

平第一臨海學校通信 第三信

起床!! 起床!!
例によつて午前五時一齊に起床、蚊帳のたゞみ方もスツカリ一人前。赤フンドシに赤帽、シャツといふ軽い仕度で直ちに校庭集合。海岸迄一走り、相變らず曇つては居るが、氣持のよい大海原に向ひながらラオ体操一回。渚を散歩。磯で小蟹やヒドデを取つた。イソギンチャクをついた。して愉快に朝飯前の時間を過しました。ですから、御飯のおいしかつたこと、僕達は今迄こんなにおいしく朝の御飯を頂戴したことはありませんでした。

出た!! 出た!!
「オーイ起きろヨーツ、お魚類は水に入れて見て浮くものは古く沈むものは新しい鶏卵は水中に入れて横になつてゐるものが多い」

日様が顔を見せたぞベツッ
晝寝の夢を破る喜びの聲
「ドレ〜ヤ〜」出たナ、愉快々々
直ちに水泳の用意、校庭

集合整列、各班の員數報告後、幟を先頭にイヤ走るワ

海岸で軽い体操後海に飛び込む、海國男兒だ、一寸も冷くないぞ!!! 波乗り、猫泳ぎ、目茶苦茶泳ぎ、水カケ、イヤハヤはしやくは

明日の献立

【朝】 味噌汁 大根 小付 佃煮
【晝】 焼酎 生姜醬油 瓜 豚肉 生姜やき

かくてグツタリして舎に歸つて来たのが午後四時でした。今夜は茶話會や試膽會があります。



黄昏の詩

文 朝

思ひ出は搖籠の故郷よ
母戀し待つ人戀し
ノスタルジャアアは黄昏の猫のしのび足の様に何時の間にか雪江の前にセンチの内にも母の乳房を慕ふる其れにも似た甘い思ひ出と

喜多流謠曲と仕舞の

お稽古をお勧め致します

平田町九六

喜多流 謠曲 白土會

◇詳細は本會へ御問合せ下さい 電二七番

提灯

御新佛の戒名入 大勉強 岐阜提灯各種

角形一對 二、五〇ヨリ 二〇、〇〇マデ
瓜形一對 一、八〇ヨリ 六、〇〇マデ

尙御好みにより値も品も色々に調製致します
御電話下されば早速見本持參御伺ひ致します

スガノヤ提灯店

平四、電九五番

是非!

御融通には御利用下さい
萬事便利な御相談に應じます

三井質店
平四・電六〇六番

開業

内科一般 川井安子

川井内科診療所

平町南町六五(舊居)
電話 二四三番

電話六四〇番

皆様のタクシーへ

此度は夏にふさはしいすがくしい色彩のニーアクシオン式新車が入車致しました、自動車の御用命はチリンチリン六四〇番を御呼び下さる皆様を新車と共に従業員一同御待ち申して居ります。新車も揃ひましたから遠乗の御用には特に御相談に應じます。

尼子タクシー

電話六四〇番

産科 院長 木村寅次郎
婦人科 醫學博士 内木宗八
外科 藥劑師 玄番彌一

平町新川町十九
入院隨意 病室完備
木村病院
電話一六四番

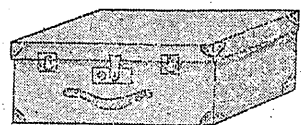


夏!!!

道歩く紳士の足も!
は白靴にかぎやく

A 先づ何よりも白靴
足も軽けりや心も躍るよ
B 成程麥藁をかぶつて黒靴では
ちよつと.....へんだね
断然安い菊地の白靴一九三四年型に
すると云つてやつたがね.....
四丁目驛通り

¥ 1.80ヨリ
5.00マデ



既製菊地靴カバン店
電話 六五九番

月曜是非

青訓指導者の

辭職問題

湯本の青訓指導員が、視察官大井川中佐の講評を過酷に失するとして憤慨し、總辭職を決定したと傳へられ、然も訓練主任久野少尉其他の名に依つて辭職理由書なるものが發表された。

その理由書に依ると、同町の青訓生徒の素質は農村青年と異つて質朴を欠いて居るから、厳格な教育を施せば出席者が皆無になるといふ様な事が實情の例として擧げられて居る。

斯かる實情が真相であるとすれば、當然手厳しい講評も試みられる事になる筈であり、手厳しい講評が耳に痛くとも是れを酷評也として憤慨する理由はないと思ふ、此處に観点を置く時湯本指導員の辭職なるものが妥當であるとは斷じ得ない。

青訓の軍事教練なるものは、國家の非常時に處する青年の士氣涵養がその重大使命であると信じて居る、然るに質朴を欠く青年達であるから厳格な教育を施せぬとあつては、一体湯本の指導員は平常如何なる態度を以つて生徒に臨んで居たのであるか、迎合的な御機嫌とりの教育を以つて「質朴性欠除」の青年達を完全に指導し得るものと考へて居るのは大きな認識不足と云ふべきである、青年訓

練所は幼稚園ではない、出席率の低下を憚れて、生徒達の劍幕に心膽を冷しなから、尻ツビり腰で二階から目薬的な教練を施す様な、そんな權威のない、そんな不真面目な態度で教練の能事終れりとする事は、教練を玩弄するものであり、引いては公費の濫用と云ふべきであらう。

「職業の關係上助手指導員が出席不良で完全な個別教育を施すことは不可能である」といふ事も理由の一つに擧げられて居るが、強將の下に弱卒なしの譬の反對に、第一線に起つて郷黨青年の指導に任せねばならぬ主腦者が認識不足の浮き足とあつては助手役なるもの、腰が坐らぬのも無理はない、此の爲めに個別教育が出来なかつた事は大井川中佐の講評を恨む理由とはならず、反つて個別教育の不足を下僚の罪に歸し責任を他に轉嫁せんとする苟くも軍人にあるまじき苦々しき逃げ口上と聞く以外の何もでもない。

殊に演習終了後生徒に與へた大井川中佐の「敵對觀念全くなきは遺憾」の言が生徒を呆然たらしめ、士氣を沮喪せしめること甚大だと云ふに至つては「生徒を呆然たらしめ」た處ではなく理由書なるものを讀む者を呆然たらしめる事甚だし、此の一言で士氣を沮喪する様な生徒達であるならば、中佐の「敵對觀念なし」の講評又決して當つて居る

いと考へられぬ。理由は「軍隊的に過重せる講評」である事等も擧げてあり「吾々は見解を異にし聊かも反省の必要はない」と大見榮を切つて居るが軍人に講評を頼んで置きなから軍隊的に偏したと不平を述べるのも噴飯事であり、己れの眼の梁りを取らず見解を異にして居ると辭職する無責任さは見識に類するものである。若し總辭職が斯かる淺薄なる理由に依つて決行し得べき當然の行爲であるならば、今後青訓に對する講評

は骨抜き泥鰌の如く何等價値なき御機嫌とりの御愛嬌を述べよより外はなくなるであらう、日頃自分達が生徒等に御機嫌とりの態度で對して居るからとて公正な講評者に迄、その誤れる行動を強へ、苦言が耳に逆つたからとてその腹慰せに重要な任務を弊履の如く捨つる無責任さは、郷黨の重要機關を忘却し、國家の意志に殉ぜざる行動である、吾人は斯から在郷軍人こそ生徒以上に訓練の必要があるのではないかと世に問ひ度くなるのである。

矢盡き刀折れた

平商の若武者連

されど壯烈な戦跡に……

武勳は輝く

全國中等學校が憧れる甲子園出陣を狙つて決戦四日我等の代表新銳平商業が縣立宮城工業、育英中學の強豪を撃破して大敵福師と勝ちを争ふ東北豫選の決勝戦——昨四日午後一時から仙台市瀧橋球場で舉行され

報ひられて晴れの争鬪戦場に立つ平商チームの血は燃えて古豪福師チームを降して天晴れ甲子園原頭に駒を進めるべく肉薄したが好守好打、好走に東北隨一を誇稱する福師チームには敵すべくもなく遂に矢盡き刀折れて二十九對一を以て敗退

——驛頭に埋まる觀迎の人波「有難ふ」の感謝の叫び「平商萬歳！」の歡呼の聲

江名濱の水道計劃

工費十一萬認可さる

漁業の發展により躍進を續けてゐる江名町では更に漁港の完成による町勢の膨脹を願慮し衛生及び消火施設の基礎として水道設置を企畫しさきに内務省に對し設置認可申請のところで去月二十五日付で認可されたので近く工事に着手すべく準備中であるが工費は約十一萬圓を起債に仰ぎ同町西

御筒常置

組員を減少

江名町の町會——江名町では来る八日午後一時から町會を招集し左記議案を附議するが席上、江名永崎海岸表忠碑除幕式の協賛組織を協議約五百圓内外の町費補助に就き懇談する

神職達が

汗みどろ講習

神職會石城支部では去る五日より五日間に亘つて平町磐城訓盲院講堂で神職講習會を開いてゐるが講師は濱市熊野神社々司元國學院

干潮時深水十五尺

工を急ぐ仲の作漁港

廿二萬圓の巨費

三ヶ年経續事業、二十二萬五千元(七、八兩年度で十五萬、九年度七萬五千元)の巨費を投じ江名町會與廢

を終り目下北側防波堤内の五千坪船溜場を締切つて堀整工事中であるが同工事は干潮時十五尺の深さにするもので現在入夫男女五百名を役使し晝夜兼行で進行を急いでゐるが大體三千坪の堀整工事を了り續いて南側の堀整に移り年度内に南北一萬五千坪の堀整完成を以て一先づこの大工事を打切る豫定であるが右完成曉は一朝海上異變の際と雖も六十噸級の船舶五十餘隻を收容し得るもので正に東北に冠たる大漁港が出現するわけである

玉川に政府米

玉川村より過般農林省に對し二百九十二俵の拂下げを申請中の處去月二十五日付で認可があつたので去る四日村會を開き價格(一俵八圓七十五錢)運賃合計二千六百圓の支出に就き協議した結果中二千圓を小學校基本金から一時運用し殘六百圓を野崎村長が無利子で立替ることに決定したが右拂下米は九日着荷するので舊盆を控へて飯米なきを嘆いてゐた農家では大喜びである

平町人事

回出生

△三丁目一三 小原良武二 男 磐雄さん

回死

△才植小路一四 岡部レケさん(六四)

忠烈空の護り

江名濱の表忠碑

加藤大將健筆を振つて

除幕式を待つ

去る五月二十四日の江名永
崎海岸に於いて突發の海軍
機墜落に操縦士増田作治少
佐(當時は大尉)即死して其
英靈は同海岸の露と消え同
乗者島田誠少佐(當時大尉)
も一ヶ月の後遂に亦逝去さ
れた

空の犠牲

は石城空前
の慘事として今猶吾人の
記憶に新らたなるものがあ
るが同所に天然營養藥品研
究所を建設した縁りを持つ
東京市齒田武彦男爵が忠烈
悲壯空しく空に散つた増田
島田兩少佐の英靈を

永遠に傳へるため私

財三千圓を以て同海岸に表
忠碑を建設することは既報
したが同碑高さは十一尺巾
三尺の大仙臺石に飛行機の
翼とプロペラ、海軍を示す
銃りを配したもので表面の
題字「忠烈護空」は特に軍事
參議官海軍大將加藤寛治氏
が墨痕鮮やかに

揮毫され

既に欄刻に
着手したが来る九月二十四
日秋季皇靈祭の佳日として
盛大なる除幕式を舉行す
ることになつた、當日は大
角海軍大臣、加藤大將、大

西横須賀海軍航空隊司令官
秦第二師團長、畑山縣知事
その他朝野の名士三千名參
列、更に海陸軍飛行機二臺
が
陸と呼應して兩少佐
の英靈に絶大の敬意を表す
ると、江名町では協賛會を
組織して齒田男の誠意を後
援することになつた、尙ほ
當日海軍省映畫班が來町當
日の盛儀をカメラに收めト
キーとして全國に紹介す
る筈であるから九月二十四
日こそ江名町始まつて以來
の盛況を呈するものと見ら
れてゐる

今夏最初

裸体群像の壯觀

昨日曜各海邊惠る

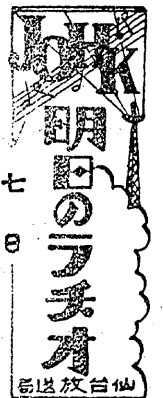
昨日の日は曜は灼熱の夏
久しぶりに太陽が顔を出し
て絶好の海水浴日和に磐城
七濱は時節外れの梅雨氣候
の長い睡眠状態から漸く脱
出した形、平驛の臨時列車
の四倉方面への乗客は
草野行二百人、四倉行五
百人、久之濱五十人
で前の丑の日よりは悪つか
たが自動車客が殊の外多く
四倉海岸の人出三千と稱さ
れ今夏最初の裸体群像の壯
觀を現出した、豊間海岸は
遠來の福師水泳講習、平第
二校の臨海學校に相當の賑
はひを見せ、小名濱は縣下

魚釣りの腕競へ

太公望連か

昨日舞子で

河北新報平通信部主催、平
釣友會後援の新舞子横川鮎
釣り大會は昨日午前五時



今晚は北東の風
明日は南東の風
曇り驟雨模様

今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間
お話「人體めぐり」(五)
醫學博士 森重 静夫
- 後六、二五 趣味講座(三)
「藏法師の旅」 文學博士
逸見 梅榮
- 後七、三〇 七夕祭實況
(仙臺市東一番丁大町角
藤崎室上より中継)
- 後八、〇〇 落語「三軒長
屋」 桂 文治
- 後八、三〇 連続ラヂオ風
景「五十錢銀貨」(第一
回) 榎本健一 外大勢
- 後九、〇〇 青年特別講座
「帝國の現状と青年の使
命」大日本聯合青年團常
任理事 田澤 義鋪
- 後九、三〇 時報ニュース
氣象通報 番組豫告

から舉行、参加五十餘名で
横川釣場を紅白二班に分け
て太公望の腕を揮つた結果
左記の諸氏入賞、東日、時
事、河北三新聞寄贈のメタ
ル外賞品を授與、午後五時
盛況裡に散會した

- ▲白班 特等金子政通氏
- 2 大島勇八 3 安達新一
- 郎 4 齊崎雪洲 5 安藤
- 善雄 6 藁谷喜多郎 7
- 齋藤定吉
- ▲紅班 1 土屋健吉 2
- 丸山隆市 3 白土喜伯
- 4 秋山秀雄 5 吉田豊

追々盛況

平第一小學校庭で一日以來
毎朝催されるラヂオ体操の
會は今朝一般人が百十一名
小學兒童が千八百五十一名
小兒が廿二名、合計千九百
九十四名また第三校庭は本
日八百卅五名あり出席者は
兩校共に漸次増加を見て居
る由

水泳の達人溺る

突然心臓麻痺を起して

氣にとめなかつたものであ
ると

落盤で

二名の死傷

内郷村大字綴字町ノ内七坑
山夫根木丑之助(三)は五日
午前八時頃同村大字宮字峰
根小松炭礦中山坑内で作業
中落盤のため即死傍らで作

明日の部

- 前六、三〇 夏期英語講座
(六)チャールズスパーカー
- 前七、二〇 聖典講義(二)
松學舎長 山田 準
- 前七、四〇 六年生のおさ
らひの時間 綴方(第二
日) 横澤 文質
- 前八、〇〇 家庭講座「魚
介類について」中村 彪
- 前九、一〇 料理献立 豊
島はるち
- 前九、二〇 野球試合實
況 第八回全日本都市對
抗野球大會(神宮より中
継)
- 前九、三〇 母の講座
- 「學令期と子供の身体」
(一) 大阪帝大講師 醫
學博士 竹村 春代
- 後五、〇五 獨唱佐藤春代
殿下奉送の感激と覺悟一長
第二師團參謀長 陸軍歩
兵大佐 常岡 寛治
- 後六、〇〇 子供の時間
兒童劇「白兔の夢」J
AK 唱歌隊
- 後六、二五 趣味講座「奥
の細道を辿る」一飯坂よ
り仙臺まで) 萩原井泉水
- 後七、三〇 箏曲「坂崎
出羽守」 酒井 雲
- 後九、〇〇 青年特別講座

文なき客

追跡され格闘

平町仲間町五八無職田中芳
郎(七)住所不定無職寺内藤
業中の採炭夫佐藤幸太郎
(四)は全身に打撲傷を受け
全治二週間の重傷を負つた

坑夫生活三十年

寄る邊なき身がヨロケ病

村役場で假埋葬

川部村大字小川越川清藏方
同居人奈良金次郎(七)は三
十年間の坑夫生活から俗稱
「炭礦ヨロケ病」にかかりヨ
イ、同様となり四日死亡
したが身寄りがないので同
村役場で假埋葬に附した

ガイドで

頭を強打

五日午前十時半頃江名町北
町貨物自動車業瀧口半治方
運轉手片岡四郎(三)が築港
産石材を満載したトラック
縣下の自轉車旅行、須賀
川町第一小學校訓導伊藤靖
治氏は學校の暑中休暇を利
用して縣下の自轉車旅行を
企て昨日平第二小學校に立
寄平町地方の教育參考資料
を得て四倉方面に出發した

新新新聞

田邊南龍(作)
山本英春(監)

一〇二：
ア、いゝ家來だ
果せるかなその翌日にな
ると迎ひの者が参りました
『元締は鹽梅が悪うござい
ますから全快すると……』
と歸つてまた翌日になる
と使ひを遣はす。
『まだ病氣が全快いたしま
せんから……』
と毎日々々手紙が来る、
仕舞には病氣々々と云ふの
は可笑しいから
『今留守だから歸つたらさ
う云ひます』
など、言譯をして居りま
すから、十郎左衛門もどか
しがつて方々の辻辻へ張り
札をいたしました。

藩隨院長兵衛事塚本長兵
衛、其方儀卑怯未練にして
何度使を遣はすとも屋敷へ
参ること能はず出逢ひ次第
蹴殺すぐきものなり
牛込 某
と云ふ札を橋または辻の
塀などへ張りました、そ
こで兎分は
『さて元締、かうく云ふ
札が辻に出て水野の屋敷へ
行くことが出来ねえ病氣だ
留守だ留守だと行かす
に居るのは長兵衛さんは死
ぬことが出来ねえんだらう
と大變に和郎さんの評判が
悪いが何うなる』

『イヤ水野主水さんの頼み
があるから行かねえんだ、
俺のことなら何とでもいへ
卑怯か未練だか後日に分る
男同士が約束したことを今
更變更をする譯に行かねえ
とは云へ、迎ひが来ても怪
病を構へ、料理屋で娘本に
『小哥も供に行きてえ』



折れやうから、然うすれば
事穩便に治まるであらうか
ら』
と、そこで長兵衛は京阪
見物に出掛ける事となりま
した。
さて長兵衛が水野主水を
呼びまじし、上方へ行かう
と云ふ事を相談いたします
と主水は大變悦んで
『何うかそれぢやアさう云
ふ事にして下さい』
と云ふので、そこで長兵
衛は愈々出立をする事にな
りました。
『小哥も供に行きてえ』

逢へば裏梯子から逃げて居
るのも心苦しい斷然俺は二
年でも三年でも上方見物で
もして來やうと思ふ、その
内には十郎左衛門も追々取
る年だ、家が大事と云ふと
ころへ氣が就て亂暴な氣も

『俺も連れつて呉れろ』
といふのを長兵衛が
『イヤ連れちやア行きてえ
が、道中筋で長兵衛といふ
事が知れると先から先に顔
役もあるし、出迎へをする
の、御馳走を……』、送別

會たのと面倒だ、また長兵
衛で行けば萬事面倒だ長兵
衛さんがかうく俺の家へ
來て云ひなすつたとか何と
云つたとか、却つて心苦し
くつて不可ん、それよりは
寧ろ氣散じにして、名前は
出放題の事をいつて吉兵衛
でも金兵衛でも構はないか
ら、さうして上方へ行く積
り三里歩いて泊らうとも五
厘歩いて泊らうとも勝手次
第衣物は汚れたと思へば旅
籠屋へ泊つて新しい奴を拵
へて前のを男にやつてしま
つても好い譯その積りで行
くんだから決して皆な一緒
に往つて呉れては困るから
……』
と斯様申付けて江戸を
出立いたしました。道中
別段のお話もなく、京都を
所々見物りたしてこれから
奈良へ來る奈良は元來奈良
の都の八重櫻と云つてその
昔皇居のございました處だ
から、名所舊蹟多く風流の
ところが多い。

玉屋洋品店
平町田町通電話六五六番

● 店員募集
年齢十五、六才、希望者は至急来店あれ

季節鳥料理
やな川
なぎは
平田町
魚菜へ
配達迅速
電話二四

かつを
塩から

魚問屋
店理代平命生本日本大最優最
榮盛賀志
(三一二電)目丁四平

吉田眼科病院
平細屋町電話六八八番
醫學士 吉田 久雄

蓄音器のレコード交換所!!!
並に新古レコード販賣所開設!!!
皆さん今迄御持ちの聞きあきたレコードを取
り換へてあげます
高價な壹枚のレコードの價で幾枚も御樂しみ
が出来ます
交換料は別に定めませんが壹枚最高五十錢最
低十錢位です
レコード用針は特に大勉強致します
平驟前貨物ホーム入口

電球と正金商會出張所
出張所 電話(呼出)三〇三番
本店 七丁目電話三九〇番

中村齒科醫院
平町 鍛冶町 七